

## 第 1 回研究会における主な意見と対応案

	指 摘 事 項	対 応 案	備 考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾関係のプレーヤーごとの関係がわかる相関図、それぞれが港湾に求めているサービスなど整理してはどうか。特に顧客主義というのは大事であり、港湾にとっての顧客やステークホルダー（利害関係者）は誰なのかを整理すると目標がわかり易くなる。また、物流、環境など港湾の業務フェーズとしてどういうものがあるかなどの整理もあるとよいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相関図による港湾関係のプレーヤーごとの関係、港湾活動における影響マップによる各主体が港湾に求めているサービス、さらには港湾行政の使命、目標、施策などを物流、環境などの分野別に整理。</li> </ul>	資料 3 資料 4
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指標の検討などにあたっては、SCM（サプライチェーンマネジメント）など、物流分野における高度化なども念頭におき、戦略的な方向性を出せるような指標の検討も必要ではないか。また、全国ベースの指標とは別に、現場でやりたいと思っていることについて現場独自のアウトカム指標が出てきてもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流分野における高度化なども念頭においた全国的な統一指標や、個別の事務所など独自での設定も許す現場のマネジメントに資する個別指標という 2 種類の指標の導入を検討。</li> </ul>	資料 4
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県の指標では、目標達成のためにいろいろな施策がどう役立っているかという膨大なロジックモデルを構築し評価を行っている。そういう努力がないと政策評価そのものの意義がなくなる。</li> <li>・ アウトカム指標については、「わかり易いか」、「納得できるか」など、関係者、国民などを巻き込んでいく必要もある。指標の切り口として、「オペレーション」、「マネジメント」、「社会インパクト」という 3 つの階層レベルでの指標が想定されるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策や事業が港湾行政の使命や目標を達成するためにどのように役立っているかを明らかにするため、計画、施工、供用の各段階におけるアクティビティのフロー図やアウトカムのフロー図（ロジックモデル）を作成して階層構造を整理し、指標を検討。</li> </ul>	資料 5
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾行政マネジメントには、アカウントビリティの向上と行政内部の執行業務の効率化という 2 つの側面があり、政策と現場とのリンケージが必要である。港湾行政における本研究会のような取組みは、諸外国でもまだ例がなく、見習うモデルがないという状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アカウントビリティの向上と行政内部の執行業務の効率化という 2 つの側面を評価する指標を考え、マネジメントの基本的な枠組みを検討。</li> </ul>	資料 4 資料 5